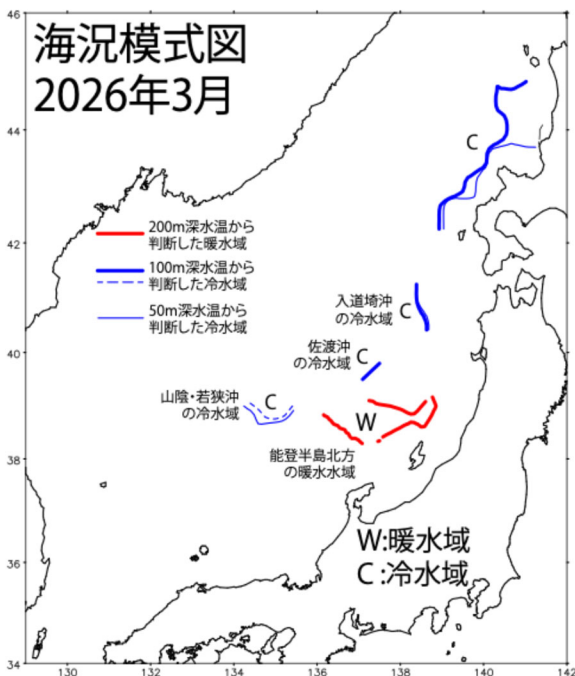




## 2026年度 第1回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2026年4月中旬～6月)のポイント



- 能登半島北方の暖水域は勢力を弱めながら停滞する。但馬沿岸～金沢沿岸に暖水域が出現する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや大きく、やや接岸で経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや接岸で経過する。
- ⇒ ○対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- 対馬暖流域の水深 50 m 水温は、日本海西部、北部ともに“やや高め”で経過する。。

(註)用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回  
“やや”：出現確率約3年に1回、“平年並み”：出現確率約2年に1回

### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部(新潟) 西内、永井

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

# 2026年度 第1回 日本海海況予報

## 1. 今後の見通し（2026年4月中旬～6月）

- (1) 能登半島北方の暖水域は勢力を弱めながら停滞する。但馬沿岸～金沢沿岸に暖水域が出現する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、やや大きく、やや接岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや接岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部、北部ともに“やや高め”で経過する。

## 2. 経過（(1)は2025年11月～26年3月、(2)～(3)は2025年11月～26年2月、(4)は2025年11月）

- (1) 11月に隠岐島北方に見られた暖水域は、12月、2月と欠測のため不明だが3月には消滅。11月に能登半島西部に見られた暖水域は、12月に消滅。11月に男鹿半島西方に見られた暖水域は、12月には欠測のため不明だが停滞していたと考えられ、2月には北東に移動し津軽海峡西部に分布、3月には消滅。3月に能登半島北方に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は11月はかなり大きくやや接岸、12月は規模・接岸距離ともに平年並み、2月は規模がかなり小さくかなり離岸、山陰・若狭沖の冷水域は11月は規模・接岸距離ともに平年並み、12月は規模がやや小さくかなり離岸、2月は規模がやや大きく接岸距離は平年並み、佐渡島沖の冷水域は11月～2月は規模がやや小さくかなり離岸、入道埼沖の冷水域は11月は規模がやや小さくやや接岸、12月は規模がかなり小さくやや離岸、2月は規模がやや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、11月は浜田沿岸、丹後半島北方、富山沿岸、佐渡島沿岸、山形西方、青森西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”、鳥取北方、村上沿岸、津軽半島沿岸で“やや低め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”、12月は山口北西、浜田沿岸で“かなり高め”、津軽海峡西方で“やや低め”～“かなり低め”、それ以外は“平年並み”～“やや高め”、2月は津軽海峡西部で“やや高め”～“かなり高め”、但馬北方、富山沿岸で“かなり低め”、それ以外は“やや低め”～“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、西部は“平年並み”、北部は“やや高め”。

## 3. 現況（2026年3月）

- (1) 暖水域は、能登半島北方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は規模がかなり小さくやや離岸、山陰・若狭沖、佐渡島沖の冷水域は規模・接岸距離ともに平年並み、入道埼沖の冷水域は規模がやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、後志～留萌沿岸ではなはだ高め、浜田沿岸、能登沿岸、村上西方、津軽半島西方、奥尻島北方、利尻島南方で“かなり高め”、但馬北方、輪島沿岸、能登半島北西、上越～新潟沿岸、秋田沿岸、積丹半島北西で“やや低め”～“かなり低め”、以外はおおむね“やや高め”～“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、西部・北部ともに“やや高め”。

(註) この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（4月～6月）も参考にした。引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| ”はなはだ高め（低め）” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| ”かなり高め（低め）”  | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ）  |
| ”やや高め（低め）”   | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ）    |
| ”平年並み”       | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温   |

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター  (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所